

自ら考え判断し、表現する子の育成（2年次）

～新聞を活用した伝え合いを通して～

新潟市立金津小学校

1 NIE 実践のねらい

当校の実態として、自分の考えを相手に伝えることに苦手意識をもつ児童が多いことが挙げられる。改善のためには、課題に対する自分の考えをもった中でかかわり合いへと繋げていく必要があると考え、昨年度より「自ら考え判断し、表現する子の育成」を研修主題とし、新聞を取り入れた授業を行うこととした。継続的に新聞記事を活用することで児童の見方・考え方を広げ、併せて表現する活動を通して、言語能力の育成を図ることを目指した。

昨年度は、新聞に触れる機会を増やすための環境づくりである「新聞を身近に感じるための環境整備」「NIE タイム」「図書館教育との連携」に取り組んだ。新聞に触れる機会を増やすための環境づくりによって、新聞に目を通したり、情報源としての新聞の良さに気づき始めたりしている児童が増えた。新聞の活用は、児童に自分の考えをもつことを促してはいるが、自分の考えを言葉にして表現することについて、苦手とする傾向がまだまだある。

また、安心して自分の考えを表現しようとする力や相手意識をもってかかわり合う力は、新聞を活用した授業だけで身に付くものではなく、それらを支える土台となる支持的な学級風土への耕しが重要となる。そこで、新聞を活用した授業づくりと学級づくりを車の両輪のように回しながら、「自ら考え判断し、表現する」力を高める指導方法の在り方を明らかにしていくこととした。

以上の理由から、今年度も、研修主題を「自ら考え判断し、表現する子の育成～新聞を活用した伝え合いを通して～」と設定し、NIE 実践(2年次)に取り組むこととした。

2 本年度実践の概要

(1) 新聞を身近に感じるための環境整備

① 新聞コーナーの設置

各階の児童が毎日目にするところに新聞各紙を設置し、新聞に触れることができる場所を確保した。新聞をめくる姿が日常的に見られるようになった。

(2024.10.22 新潟日報朝刊「まいにちふむふむ」でも紹介)

② 掲示板の利用

廊下の掲示板を利用し、新聞記事に対しての自分の考えを児童が付箋に書いて貼るコーナーを設置したり、学年に応じた内容の新聞記事や感想を掲示したりした。

(2) NIE タイムの実施

毎週水曜日の朝学習 15 分間を NIE タイムとして設定した(1年生は9月



から)。学年の発達段階に応じて、新聞に慣れる活動に取り組みつつ、自学級児童の「自ら考え、判断する」「表現する」力を高めるために、目的や意図を明確にし、NIE タイムに取り組んだ。(2024.10.22 新潟日報朝刊「まいにちふむふむ」でも紹介)

学年	内容例	目的・意図
1 年	お気に入りの国のことを友達に伝えよう。	写真がある記事の内容を読み取り、自分の伝えたいことを伝えられるようにするため。
2 年	カラスの被害を減らそう。	生活科の野菜を育てる学習の補助資料として示し、畑の野菜をカラスから守る方法を知らせるため。
3 年	好きな遊びを紹介し合おう。	読みやすい記事を用いて、自分の感想をもち、友達に紹介し合わせるため。
4 年	水筒の色と中身を推理して、みんなでパズルを解こう。	算数「資料の整理」で学習したことを活用するため。
5 年	電子機器から目を守ろう。	生活チェック習慣に合わせ、電子機器の使い方を考え、視力低下を防ぐため。
6 年	お気に入りの記事から自分の考えと友達への問いを書き、意見を交流し合おう。	他者理解と言われる（認知的）共感の要素である「視点取得」を経験させるため。

(3) 他教育との連携

① 図書館教育

図書館前の掲示板に新潟日報「毎日ふむふむ」を1週間ごとに掲示したり、廊下に読売 KODOMO 新聞を広げて読んだりできるようにした。また、図書館司書が気になる記事を掲示したり、図書館利用の学級に話をしたりした。



② 理科教育

理科室前の掲示板に、恐竜の進化過程や昆虫の変態の様子、天体（星座の説明・月面への着陸方法）など、児童が興味関心をもったり、観察する際の手助けになったりするような新聞記事を提示した。

③ 保健教育

保健室前の掲示板に、児童の来室状況から必要だと考えられる「基本的な生活習慣」「心の健康」についての新聞記事を掲示し、児童が積極的に心身の健康の保持増進を図ることができるようにした。



(4) 職員研修

新年度となり、半数以上の教職員が入れ替わったため、4月に、新潟県 NIE アドバイザー古井丸裕三様(新潟市立曽根小学校校長)を講師として招聘し、NIE に関する基礎的なことについて職員研修を行った。講演後は、新聞記事を活用した授業における、「自ら考え、判断する」力・「表現する」力の具体について話し合った。(2024.5.10 新潟日報朝刊 19 面参照)

7 月にも古井丸裕三様を招聘し、研究授業を基に NIE の授業づくりについてご指導いただいた。講演後は、各学年部に分かれて、NIE の授業検討や情報共有を行った。

(5) 授業の中での新聞活用

各教員が、新聞を用いた授業実践を授業研究として行った。校内研修計画の「研修の内容 (1) (2) (3)」(以下を参照)のうち、どのような意図で新聞を活用するかを指導案に明記し、授業後の協議会で新聞活用の有効性について協議した。

- ・研修の内容 (1)
理由や根拠を明らかにして、自分の考えをもつことができるようにするための効果的な新聞記事の提示の仕方や、課題設定の在り方について
- ・研修の内容 (2)
自分の考えを表現させるための有効なかかわらせ方について
- ・研修の内容 (3)
支持的風土を醸成するための活用の仕方について

日付	学年	教科	単元名等	新聞活用場面： 活用の意図(研修の内容)
6/19	6 年	学活	相手の気持ちを考えた言葉について考えよう	①導入：研修の内容 (3)
7/12	4 年	理科	夏の星	①展開：研修の内容 (1)
9/10	6 年	学活	相手の立場の違いによる言葉の受け取り方について考えよう	①終末：研修の内容 (3)
10/ 1	特別 支援	自立 活動	どうして笑顔でいるのかな	①導入：研修の内容 (1) ②展開：研修の内容 (2)
10/ 4	5 年	道徳	地球温暖化の影響と私たちにできること	①導入：研修の内容 (1) ②展開：研修の内容 (1) ③終末：研修の内容 (1)
10/ 7	5 年	道徳	ほんとうの正義とは何だろう	①導入：研修の内容 (1) ②終末：研修の内容 (2)
10/18	4 年	道徳	決めつけてないかな	①導入：研修の内容 (1) ②終末：研修の内容 (1)

10/29	特別 支援	生活 単元	新聞を使って色々な物を作ろう	①導入：研修の内容（１）
11/ 5	３年	国語	こそあど言葉	①導入：研修の内容（１） ②終末：研修の内容（２）
11/ 8	１年	道徳	せかいのこどもたち	①導入：研修の内容（１） ②終末：研修の内容（１）

３ 実践例（2024 年 11 月 21 日 2 年次公開授業より）

（１）第 3 学年 国語 授業者：教諭 武藤 奎太
単元名「こそあど言葉」

① ねらい

こそあど言葉の使い方について、新聞記事内のこそあど言葉が示す内容を考え、伝え合う活動を通して、こそあど言葉の文章中での働きを理解することができる。

【知識及び技能】

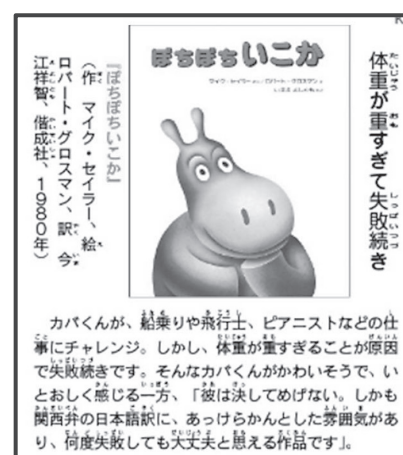
② 使用した新聞記事（活用場面：活用の意図）

ア 2024 年 6 月 23 日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（２））

イ 2024 年 7 月 11 日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（２））

ウ 2024 年 8 月 1 日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（２））

エ 2024 年 8 月 20 日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（２））



③ 主な手立て

ア 新聞記事を活用することで、こそあど言葉についての理解を深める。
導入で、「文章では、こそあど言葉がどんな働きをしているのか」という課題意識をもたせる。展開では、限られたスペースで情報を伝える新聞記事の中からこそあど言葉を探し、こそあど言葉が指示している内容を探す活動を行う。その後、自分が選んだ新聞記事のこそあど言葉と友達を選んだ新聞記事とを比較する活動を行う。比較する中で、こそあど言葉が前の文章を示していることに気付かせていく。

イ 新聞記事を活用し、協働的な学びの充実を図る。

本時前日の NIE タイムで複数の本の紹介記事の中から読んでみたい本を選ぶ活動を行う。本時では、主体性をもって活動に取り組ませるため、NIE タイムで選んだ本の記事を本時で使用する。同じ記事を選んだ友達同士で関わり合うことを承認することで、主体的に関わることを価値付けていく。友達と関わることで新たな気付きに繋がるということを肯定的に評価し、協働的な学びを充実させていく。

④ 実践の結果

<授業の実際>

- ・「せっちゃんくざいの今と昔」の文章中から、こそあど言葉やそれが指し示す文を見付ける際、教師が教材文を少しずつ提示していくことで、ほとんどの児童がこそあど言葉が指し示す内容を理解していた。さらに、こそあど言葉を使って読みながら確かめさせたことで、その言葉の働きについて理解を深めていた。これらの活動を通して、新聞記事など他の文章でも確かめたいという思いをもたせることができた。
- ・NIE タイムで選んだ記事を使用し、こそあど言葉やそれが指し示す文を見付ける活動では、同じ記事を選んだ友達同士で共有ノートを活用しながら進んで関わり合い、考えの違いに気付くことができた。
- ・自分が選んだ新聞記事と友達の新聞記事のこそあど言葉とを比較し、共通点を見付ける活動では、「そ」がつくこそあど言葉が多いことや前の文を指し示していることに気付くグループがあった。

<児童の振り返りより>

- ・こそあど言葉は、教科書以外にも本やいろいろなところにある。こそあど言葉は前の言葉を指していることが分かった。
- ・こそあど言葉は、教科書の文章だけでなく、新聞記事にもあることが分かった。それから、友達と話し合うことで、こそあど言葉が指している言葉が分かった。

(2) 第5学年 家庭科 授業者：教諭 小林 理沙

題材名 「生活を支える物やお金」

① ねらい

食材の買い物について、買おうと思ったものを理由とともに説明する活動を通して、自分の家庭の条件に合った食材の選び方を考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】

② 使用した新聞記事（活用場面：活用の意図）

ア 2024年 7月23日 毎日小学生新聞
（導入：研修の内容（1））

イ 2024年 6月25日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（2））

ウ 2024年 11月 6日 朝日小学生新聞
（展開：研修の内容（2））



③ 主な手立て

ア 食材についての現状や課題に関する記事や資料を読むことを通して、食材を買うときにはどんな視点をもって選ぶとよいか考えたいという思いをもたせる。

本時の前に、自然体験教室で作ったことがあり、身近で材料も想像しやすいカレーライスについて、自分で作るとしたらどんな食材を入れるか考えさせておく。

本時では、新聞記事アを用いて、カレーライスを作るための食材などの値上がりが激しいことを捉えさせる。そして、児童があらかじめ考え

た理想のカレーライスを作る場合の値段を提示し、記事に書いてあるカレーライスの値段と比較させる。そうすることで、自分の理想のカレーライスは値段が高く、材料を考え直す必要がありそうだという思いに繋げ、材料を買う時の視点について話題を広げ、買い物をする時に大切にしたいことについて考えさせる。

展開では、新聞記事イとウを用いて、家庭での食品ロスが多いことを知り、食品が無駄にならないような物の買い方もあるということにも気付かせていく。これらの食材の選び方や買い方を踏まえて、自分で買うものを選んでみたいという思いをもたせる。

④ 実践の結果

<授業の実際>

- ・導入や展開で新聞記事を提示したことによって、食材を取り巻く社会問題や課題が複数あることに気付いていた。カレーライス作りの材料について、値段だけでなく、産地や好み、家庭の環境など多様な視点を踏まえて、どのような食材を選択するか考えていた。
- ・教師が意図的に新聞記事や資料の内容を抜粋したり、紹介したりすることで、児童は食材を取り巻く社会問題や課題の要点やキーワードを理解していた。また、食材をどのように決めたのかを伝え合う際、新聞記事を引用して、意見を伝えていた。
- ・温かい雰囲気の中で安心して意見を交流していた。ペアでの伝え合いを通して、食材の様々な選び方があることに気付き、自分の家庭に合った条件について見つめ直していた。それぞれの児童が大切にしたいポイントを2つに絞り、そのポイントを大切にする理由をまとめていた。

<児童の振り返りより>

- ・最初は、値段を優先していたけど産地も大切だと思った。外国産だと自動車や船、飛行機などを使わなきゃいけないから、それにはたくさんの燃料が必要になる。地球温暖化にも影響が出てしまうので、産地も大切だと思った。
- ・友達がフードロスの考えを説明してくれて、なるほどと思った。でも、私は好みが大事だと思った。辛口より甘口が好きだし、福島県産より新潟県産のお米がいい。

(3) 第6学年 学級活動 授業者：教諭 江部 壮彦

題材名 「周りの人に自分の思いが伝わる表現方法について考えよう」

① ねらい

自分の思いが伝わる表現方法について、児童会祭りの活動の中で自分の思いを表す方法を話し合う活動を通して、自分に合った表し方を決めることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

② 使用した新聞記事（活用場面：活用の意図）

ア 2024年10月21日 新潟日報（展開：研修の内容（2））

イ 2021年11月18日 新潟日報（展開：研修の内容（3））

③ 主な手立て

ア 意見交流の際に新聞記事を用いて、思いの表し方を考える一助とする。

本時では、児童会祭りの活動の中で「全校が楽しめる」「お客さんに寄り添う」ために、どのような行動で表すのかを話し合う。話し合うことの意味を出し合う場面で、思いの表し方が書かれている同年代の投書を提示する。投書の内容を確認することで、考え方の広がりにつなげる。



イ 振り返りの前に新聞記事を提示し、記事から考えられることを確認することで、話し合いを通して感じたことや考えたことを強化・深化したり、活動に対する自信や安心感をもたせたりする。

話し合い後、自分が取り組むことを決め、振り返りを書かせる。振り返りの前にも同年代の投書を提示する。記事内にある「感謝は言葉以外にも積極的に行動するなどの態度でも示すことができる」を押さえることで、話し合いを通して感じたことや考えたことを強化・深化したり、自分が決定したことに対して自信や安心感をもったりすることができる。

④ 実践の結果

<授業の実際>

- ・意見交流の際に新聞記事を用いたことで、思考のよりどころとなっていた。児童の意見の支えとなり、自信や安心感、思考の視点を絞る、具体例という意味で自分の思いを表す姿があった。
- ・同年代の投書だったため、内容に共感したり自分の行動に自信をもったりしていた。それにより、言葉に表しづらい感情や考えを、自分なりの言葉で表現することができていた。
- ・児童の思考に沿った記事が提示されたが、新聞記事を提示する前から自分の考えをもっている様子も見られた。読むことで考えを深めることにつながる記事を提示するとよかったのかもしれない。

<児童の振り返りより>

- ・記事から、行動をされた人は嬉しくなったり、自分もやりたいという気持ちになったりすることを学んだ。だから、いい雰囲気を作ったり笑顔でいたりしたら、全校が楽しめると考えた。児童会祭りの活動の中で思いが伝わるように笑顔でいい雰囲気を作れるようにしたい。
- ・言葉だけでは伝わらないことがあるから、行動して相手に気持ちが伝わるようにしたり相手が楽しめるようにしたりしたい。これからは言葉だけでなく行動で示していきたいと思ったし、低学年に寄り添うような出店を考えていきたい。
- ・これまでは、思いを伝えるためには言葉で伝えるのが一番いいかなと思っていただけ、行動で相手に示すことも大切だと感じた。「全校が楽

しめる」を伝えるためには、ポジティブに話すと相手も安心できるなと思った。

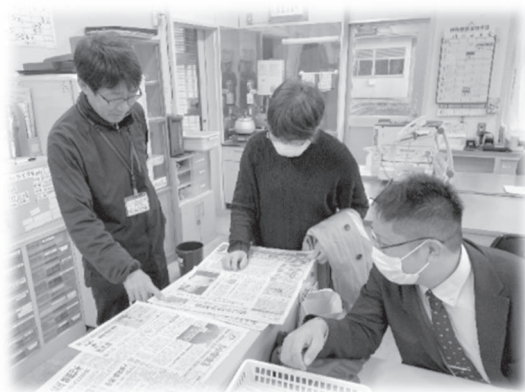
4 成果

3つの観点から授業づくりを進めたことは、授業づくり研修の方法として、大いに有効であった。これまでの授業実践から考えられることは、単元の構想や授業のねらいによって、新聞の活用場面や提示方法が変わるということである。どのような授業（単元）を構想し、どのような意図で新聞を活用するかを明確にすることで、児童に身に付けさせたい力が付いてくると感じている。

児童アンケート「あなたは、自分の考えを友達に分かるように、書いたり発表したりしていますか？」の質問項目に対し、昨年度の4月は、73.7%（「あてはまる」…21.5%、「まあまああてはまる」…52.2%）の児童が肯定的に回答していた。今年度の11月は、81.5%（「あてはまる」…39.2%、「まあまああてはまる」…42.3%）の児童が肯定的に回答していた。肯定的に回答した児童が増えているだけでなく、より肯定感を高めた児童の割合が増えている。児童の実態を踏まえ、興味関心に合う



ような記事を活用することで、内容を理解しようという意欲をもちながら自分の考えを書くことができているからであると判断している。同時に、相手意識をもったかかわり合いの指導を継続して行うことで、自分の考えを表現できるという安心感が生まれ、考えを伝え合うことにつながっているのではないかと考えられる。



子どもたちだけでなく、職員にとっても新聞が身近になった。NIEに継続して取り組むことで、授業やNIEタイムで使用する新聞を探すために職員室で新聞に目を通している職員がいたり、自宅から持ってきた新聞を活用したりするなどしていた。そして、それらを互いに共有していた。例えば、各学年で同じ新聞記事を使ってNIEタイムを行ったり、それぞれの校務分掌に合

う新聞を提供したりしていた。2年間の研修は、協働性が発揮される価値のあるものとなった。来年度以降も、2年間で培った職員間の協働性を発揮しながら、可能な範囲でNIE実践を続けていく。それにより、主体的に学習活動と向き合い、自分の思いや考えを自分の言葉で伝えられる子どもの姿の具現化につなげていきたいと考えている。

（江部 壮彦）

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞・通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新潟市立曽根小学校 校長 古井丸 裕三



金津小学校の NIE は、新聞活用を通して学力の向上を目指すとともに、「自分の考えを相手に伝えることに苦手意識がある」という教育課題について、教科横断的な取組により解決を図ろうとするものでした。集大成の研究発表会では、新聞記事を読んで自ら考えたことを、友達と意見交流しながら判断し、表現することを通して広げ深めようとする子どもたちの成長した姿を見ることができました。子どもたちに多様な「資質・能力」

を育成するために、新聞は大変価値のある教材になることを改めて感じました。

新聞を読むことを通して、社会の出来事を自分事として捉えて考える習慣が身に付き、語彙や読解力、文章力などの豊かな言葉の力が育ちます。家庭の新聞購読率が低下傾向にある中で、学校が新聞に親しむ環境を提供し、新聞の特性を生かした学習活動を行うことは、今後ますます重要になるでしょう。「実践指定校」としての成果を一過性のものとして終わらせず、NIE の日常化をさらに進め、「新聞が当たり前存在する学校」になっていくことを期待しています。

2 担当新聞・通信社

日本経済新聞社新潟支局長 水庫 弘貴



新潟市立金津小学校を担当することになっていましたが、体調を崩して研究発表会に参加できず、大変ご迷惑をおかけしました。発表内容など当日の様子がわからないため、いただいた資料をもとにコメントさせていただくことをご容赦ください。

金津小学校は「自ら考え判断し、表現する子の育成」とのテーマで取り組まれました。自分の考えを相手に伝えることに苦手意識を持つ児童が多いことが、背景にあるとのことでした。そこで、児童が新聞記事を継続的に読んで考え方を広げ、表現活動を通じて言語能力の育成を目指したそうです。

SNS の浸透などで多様な情報が飛び交っています。しかし、中には「フェイクニュース」と呼ばれるような、誤った情報も流れてきます。それ故、受け取った情報が正確で信頼できるかを見極め、有効に活用していく「情報リテラシー」を身につけることが重要になっています。金津小学校が新聞を使い情報リテラシーにつながる教育をされていることは、非常に心強く感じました。

これからも正確で有用な記事を迅速に発信するとともに、教育現場で教材として使われることも意識して常に正しい日本語を使って記事を書いていかななくてはならないと思いを新たにしました。